

長門市油谷地区小さな拠点づくり基本計画

令和 4年2月

長門市

長門市油谷地区小さな拠点づくり基本計画の構成

第1章 油谷地区小さな拠点づくり基本計画の背景

1. 油谷地区概要と小さな拠点づくり	2
2. 基本構想の主な考え方と基本計画の検討経緯	3
3. 油谷地区における現状と課題	4
4. 基本計画の位置づけ	7
5. 中心的施設など整備計画の背景	8
6. 油谷支所庁舎及び周辺の公共施設の現状と課題	9

第2章 油谷地区小さな拠点づくり中心的施設整備の基本的な考え方

1. 基本構想における中心的施設整備の検討	14
2. 中心的施設立地エリアの特徴	15
3. 中心的施設に求められる基本的役割	18
4. 中心的施設と民間施設との複合化	19

第3章 油谷地区小さな拠点づくり中心的施設整備方針

1. 中心的施設整備のコンセプト	20
2. 中心的施設の整備・配置場所	21
3. 中心的施設に求められる機能と役割	23

第4章 事業計画

1. 整備計画	24
2. 事業スケジュール	27
3. 概算費用	27

— 油谷地区小さな拠点づくり基本計画検討委員会 —

第1章 油谷地区小さな拠点づくり基本計画の背景

1. 油谷地区概要と小さな拠点づくり（油谷地区小さな拠点づくり基本構想より）

油谷地区は、本州の最西北端、山口県の西北部に位置している。北側には北長門海岸国立公園に指定される美しい日本海の風景が広がっている。

日本海沿岸一帯の豊かな漁場では、古くから捕鯨や漁業が盛んに行われ、多くの漁港が点在している。北長門海岸国立公園に指定される海岸線では、日本海の荒波に浸食された岩と白い砂浜が出入りし、変化に富んだ雄大な自然景観を生み出している。日本海を背景に123基の鳥居が、龍宮の潮吹側から100m以上にわたって並ぶ景色が広がる「元乃隅神社」、海に浮かぶ「棚田」のシルエット、本州最西北端に突き出した「川尻岬」の緑青色の海などは、訪れる人々を魅了している。

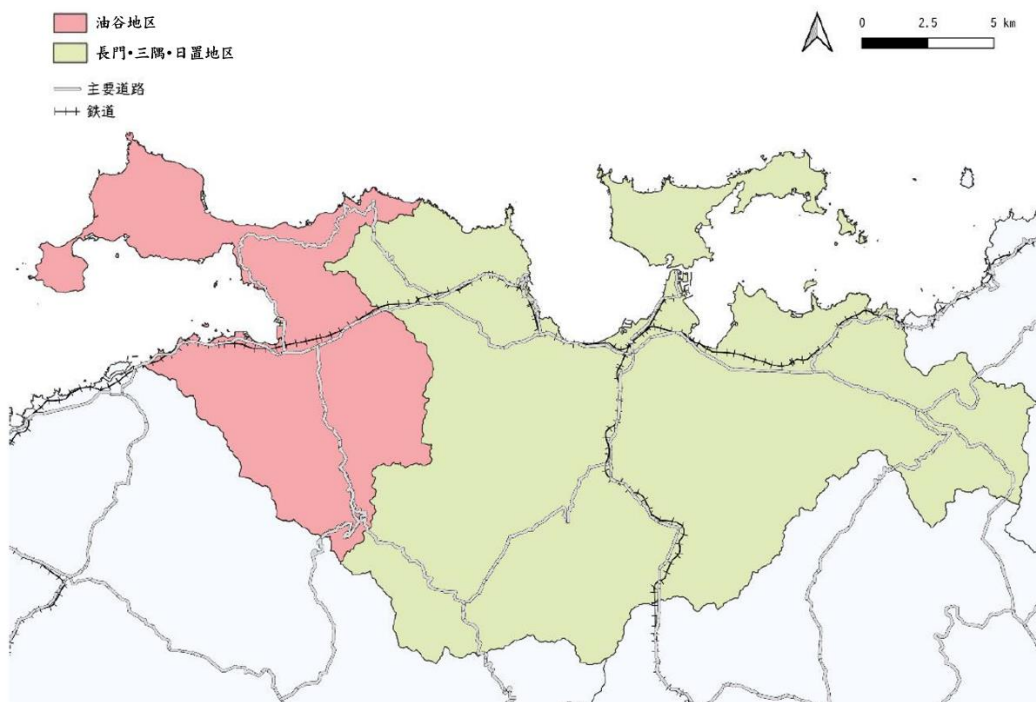
また、油谷地区には、美しい海を臨む「油谷湾温泉」があり、多くの人々が訪れている。一方、歴史の舞台では、楊貴妃伝説など浪漫あふれる物語も数多くある。

油谷地区は、こうした豊かな大自然とこれまで築かれてきた歴史や文化を融合したまちづくりを進めている。

一方、人口減少や少子高齢化、都市部への人口流出により、健全な地域社会の活動維持や豊かな地域資源の維持が困難な状況になっている。

このような現状を踏まえ、油谷地区が抱える課題解決に向け、令和3年3月「油谷地区小さな拠点づくり基本構想」が策定された。

[油谷地区の位置]



2. 基本構想の主な考え方と基本計画の検討経緯

油谷地区小さな拠点づくり基本構想は、住民参加のもと、地域の将来を住民が中心となり、行政と一緒に考えて考える形で進められた。具体的には、市民アンケート、地区別ワークショップ、全体ワークショップを実施し、生活での困りごとや今後のまちづくりについて、また、地区の課題を解決するために油谷地区でできることを話し合い、長門市油谷地区小さな拠点づくり基本構想検討委員会において、令和3年3月「油谷地区小さな拠点づくり基本構想」を策定した。

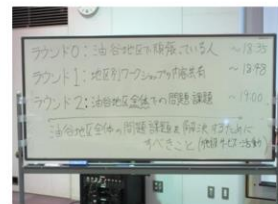
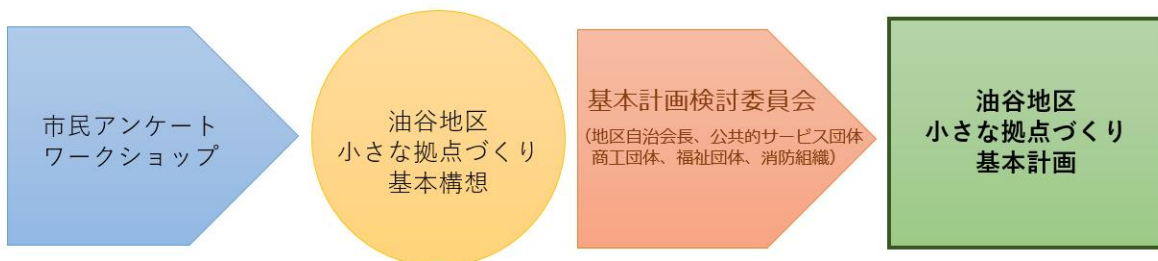
基本構想では、目指す将来像を「誰ひとり取り残さず“いごちよく”住み続けられるまち」とし、「向津具地区」や「宇津賀地区」の特徴を生かした地域づくりを進めつつ、油谷支所周辺の「菱海地区」を中心に、支え合いながら暮らしの質を上げていくことで、油谷地区全体の居心地の向上を図ることを目指すとしている。

小さな拠点の実現に向けた取組のアプローチのひとつ「油谷地区の全員が安心して集まれる居心地のよい場づくり」については、活動の中心となる拠点づくりを進めるため、油谷地区全体の地域振興の中核となる菱海地区において、市民へのきめ細やかなサービスを提供でき、市民の生命と財産を守り、市民が安全安心に暮らせる生活環境を守るための中心的な拠点施設の整備が期待されている。

活動の中心となる拠点づくりを進めるため、令和3年5月小さな拠点づくり基本計画検討委員会を設置し、地区自治会長、公共的サービス団体、商工団体、福祉団体、消防組織から委員を選任し基本計画を策定することとした。

■ 小さな拠点づくりで目指す将来像

「誰ひとり取り残さず“いごちよく”住み続けられるまち」



市民ワークショップの様子

3. 油谷地区における現状と課題

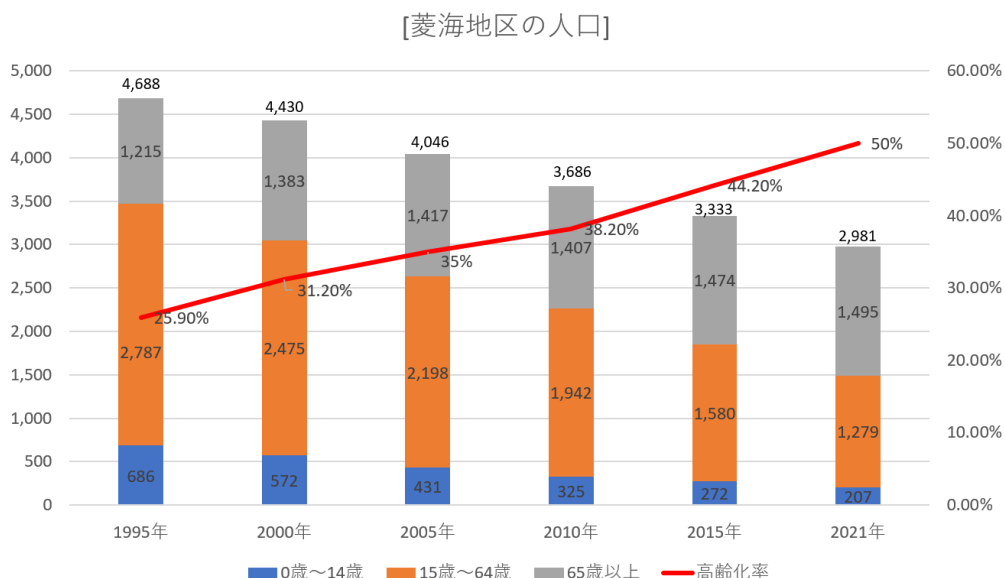
油谷地区においては、人口減少への対策や地域住民の生活を守るための生活サービスの維持、行政機能とコミュニティ施設の存続等が求められている。

行政サービスをひとつの柱として、人と人がつながる仕組みを創出し、地域住民同士が支えあい、行政機関と連携し、まずは、菱海地区を中心に自らが地域の課題解決に参画できる社会の実現が必要となってくる。

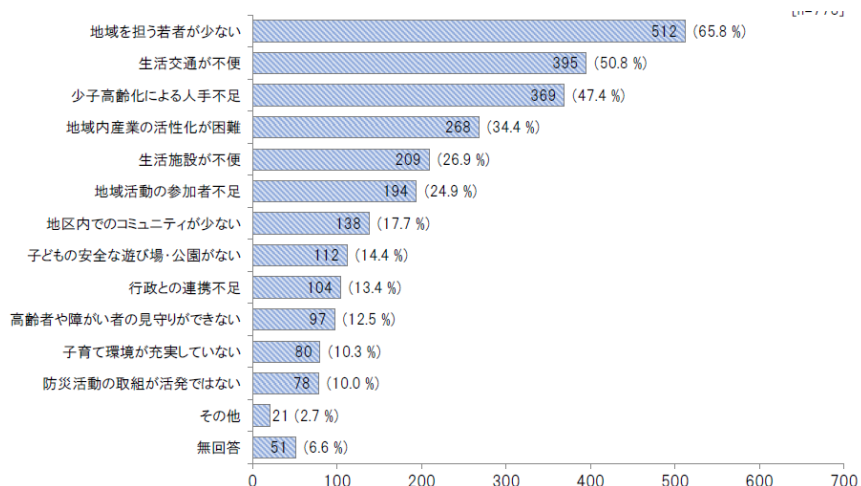
油谷地区小さな拠点づくり基本構想より

分野	現状・問題点	課題
人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 2005年の合併時8,032人だった人口は2021年末には5,200人にまで減少、高齢化率は55.1%となっており、地区のコミュニティの維持が困難 ● 人口減少が続くと豊かな観光資源を守っていくことが困難 	<ul style="list-style-type: none"> ● 人口減に歯止めをかけるために、若者の移住・定住の促進に向けた仕組みづくりが必要 ● 豊かな地域資源を守り続けるための人材を増やす取組が必要
生活サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 油谷支所周辺的生活サービスが油谷地区に住む住民の生活を支えている ● 一部の公共サービスが提供できていない地区が存在 	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の生活を守るためにも、今ある生活サービスの維持が必要
空家・空地	<ul style="list-style-type: none"> ● 空家が多数あり、市内に占める32%が油谷地区である ● 今後、人口減少と高齢化が進むと、更なる空家・空地が増加し、防犯・景観・環境の悪化につながり、まちへの愛着心の低下や定住人口の減少につながる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地区内に存在する空家・空き地や地域資源を活用し、魅力的なまちづくりのマネジメントが必要
交通	<ul style="list-style-type: none"> ● デマンド交通や乗合タクシーが運行しているものの交通空白地域が存在 ● 油谷地区での困りごととして、「生活交通が不便」が上位2位となっている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日常生活の移動確保のため、地域特性、移動ニーズにあった地域間ネットワークづくりと地域で支え合う交通手段の確保が必要
コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ● 行政機能とコミュニティ施設のあるべき油谷支所と地域を守る西消防署が老朽化 ● 子どもから高齢者までが集まれる交流の場が必要とされている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最低限のサービスを守るため、行政機能とコミュニティ施設の維持・存続が必要 ● 誰もが安心して集まれる地域コミュニティの場の形成が必要
市民活動	<ul style="list-style-type: none"> ● イベントの開催や買い物代行、自然学校等を実施 ● 地元のイベントや祭りが盛んに実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの活動をサポートしながら、連携させ、地域がより一体となり、地域を盛り上げる必要がある

全国の中山間地域と同様に「菱海地区」においても少子高齢化が進み、地域コミュニティの希薄化や地域経済の縮小といった課題が見受けられ、「人」と「経済」といった観点からも地域活性化に向けた取り組みが求められている。



「油谷地区での困りごと」では、「地域を担う若者が少ない」や「生活交通が不便」「少子高齢化による人手不足」といった意見が上位を占め、生産年齢人口を中心とした人口増加対策も必要となる。



油谷地区小さな拠点づくり基本構想より

高齢化が進む地域においては、油谷地区での困りごとの上位にもある交通対策が求められる。生活する上で必要な施設等への移動手段は車に依存することが多く、車や運転免許を持たない交通弱者へは、バス路線やデマンド交通に関して更なる充実を図ることが求められている。

■デマンド交通の状況

油谷地区

油谷津貫、油谷後畑、油谷角山、油谷蔵小田、油谷新別名、油谷久富、油谷河原、油谷伊上

油谷地区で予約のあった地点（自宅付近）と人丸駅、友近医院、サンマート人丸店、油谷支所、JA油谷支所、油谷保健福祉センター、ラポールゆや、伊上郵便局、伊上駅、宇津賀郵便局の間を運行します。 ※2人以上から予約があった場合は、各予約地点を回り、利用者は乗り合わせます。



週5日【月曜～金曜】

※年末年始(12/29～1/3)は運休

電話予約で運行します

※電話受付時間は
出発1便は利用希望日の前日18時まで、
その他の便は出発の1時間前まで

300円（小学生以下:100円）

※保護者同伴の未就学児は無料
※身体障害者手帳、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びこれらの者を介助する者は150円

向津具地区

中ノ森、田久道、白木、久津、大和、南方、本郷、山崎、水岬、上野東、上野西、大浦東、大浦西、油谷、川尻西、川尻東

向津具地区で予約のあった地点（自宅付近）と向津具公民館、上小田バス停、久津郵便局の間を運行します。

※2人以上から予約があった場合は、各予約地点を回り、利用者は乗り合わせます。



週5日【月曜～金曜】

※年末年始(12/29～1/3)は運休

電話予約で運行します

※電話受付時間は
出発1便は利用希望日の前日17時まで、
その他の便は出発の1時間前まで

300円（小学生以下:100円）

※保護者同伴の未就学児は無料
※身体障害者手帳、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びこれらの者を介助する者は150円

4. 基本計画の位置づけ

本計画は、本市におけるまちづくりの指針である「第2次長門市総合計画」（平成9年～令和8年）を上位計画とし、基本目標「安全で安心して住めるまち」「自然と共生し、快適なまち」「支えあい、地域を担う協働のまち」の実現に向けた施策を総合的、かつ計画的に推進するためのものとして位置づけられる。

また、「第2期長門市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（令和2年度～令和6年度）では、地域の特性と集落の相関状況、地域資源の配置等を総合的に把握し「小さな拠点」を中心とした生活圏の整備を進めることとしている。

本計画は、上位計画に沿って令和3年3月に策定された「油谷地区小さな拠点づくり基本構想」に基づき策定するもので、油谷地区全体が抱える課題、解決策について様々な点を検討し、活動の中心となる拠点づくりを進めるため、中心的地域が果たすべき役割と中心的施設の整備について計画することにより、行政と連携し住民同士が支えあえる油谷地区小さな拠点づくりの実現を目指すものである。

■油谷地区の小さな拠点づくりが目指すイメージ



5. 中心的施設など整備計画の背景

現在、菱海地区にある油谷支所庁舎は、平成17年の長門市合併に際し、それまでの油谷町役場庁舎として使っていた建物をそのまま転用したものである。旧油谷町役場庁舎は、昭和44年に建設されたもので、築後50年以上が経過、また、西消防署も築後50年近く経過している。

菱海地区には、油谷支所以外にも広域的な利用範囲で使用されている施設が存在しているが、特に昭和40年代に建設された建物は老朽化が進むとともに利用者の利便性が悪く、多くの課題が山積している。

■利用範囲が広域的な菱海地区の主要施設

分類	施設名	建設年度
行政施設	油谷支所	昭和44年(1969年)
体育施設	油谷勤労者体育センター	昭和55年(1980年)
	油谷総合運動公園	平成元年(1989年)
	油谷コミュニティーパーク	平成9年(1997年)
保健施設	油谷保健福祉センター	平成16年(2004年)
消防施設	西消防署	昭和48年(1973年)

油谷支所庁舎の周辺には、ラポールゆや(油谷中央公民館、文化会館、図書館分館の複合施設)、油谷保健福祉センターなどの公共施設や、小中学校等教育施設が点在している。また、郵便局、ながと大津商工会支所、山口銀行支店、山口県農協支所など公共的サービス及び金融関係施設や医院、歯科医院といった医療施設もある。

商業関連施設では、スーパーマーケット、ガソリンスタンド、コンビニエンスストア、ドラッグストアなど商業施設・各種店舗などもあり、油谷地区全域における暮らしにおいては住み続けられるまちであり、いわゆる“小さな拠点”が現状で形づくられている。

しかし、油谷地区全体で少子高齢化と人口減少がさらに進行することが予測される中で、これまで培ってきた魅力ある資源や活動などを若い世代に継承し、住み続けられるまちを維持していくことが困難な状況に陥っている。

油谷地区の小さな拠点づくりで目指す将来像「誰ひとり取り残さず“いごちよく”住み続けられるまち」の実現に向け、計画策定には、持続可能なまちづくりの視点、新たな時代の変革への対応を考えて取り組んで行くことが求められていると言える。

今後、人口減少社会の中で、地域で暮らす市民にとって、「いごちよく”住み続けられるまち”としての役割を担う公共施設には、どのような機能を備えるべきなのか、地域住民と協働で計画を進めて行く必要がある。同時に、既存施設の機能を取り込みながら複合化の方向を探り、コンパクトで効率の良い施設として、新しい地域の拠点を作り直していくことが重要となっている。

公共施設の再整備を通して、“いごちよく”住み続けられるまちの中心的施設をつくることへの期待は大きいと言える。

6. 油谷支所庁舎及び周辺の公共施設の現状と課題

(1) 油谷支所庁舎

油谷支所庁舎は、昭和44年に建築され、延床面積1,819㎡、鉄筋コンクリート造3階建の建物で、もともと旧油谷町の役場庁舎として建てられたものである。

合併後、減少した職員数に対して、必要な延床面積以上の規模があり、現在は、支所としては主に1階を使用しているが、2階半分と3階部分は使用機会が少なく、階段踊り場や3階部分は雨漏り箇所が目立っている。

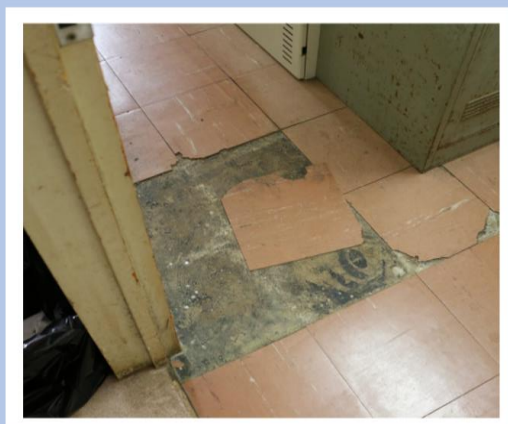
また、旧耐震基準で建てられているため、今後も安心して使い続けるためには、大規模な耐震改修工事などが必要となる。これまで、必要に応じて改修が繰り返されてきているものの、劣化による外壁コンクリートの落下や、空調設備などの故障、雨漏りなどが発生し、老朽化が進行している状況から、将来の維持管理費の増大が見込まれる。さらに、トイレをはじめとするバリアフリーへの対応など改善も必要となる。

昨今、頻発する自然災害時には災害対策本部油谷支部としての役割を担うことが求められているものの、避難場所として指定されている油谷保健福祉センターやラポールゆやなどと分離していることも大きな課題となっている。



建設から50年以上が経過した油谷支所

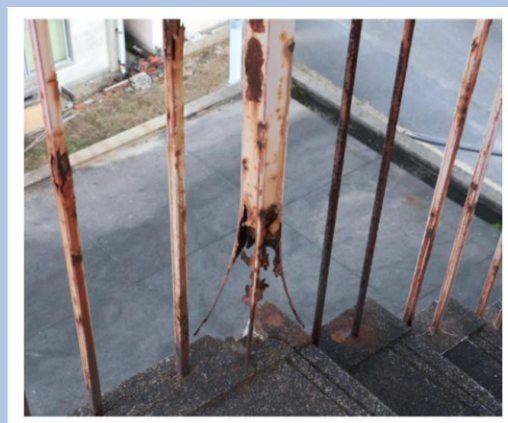
油谷支所庁舎の現状



経年によりはがれた床



雨漏りによってはがれた天井



腐食した屋外手すり



外壁コンクリートの落下跡

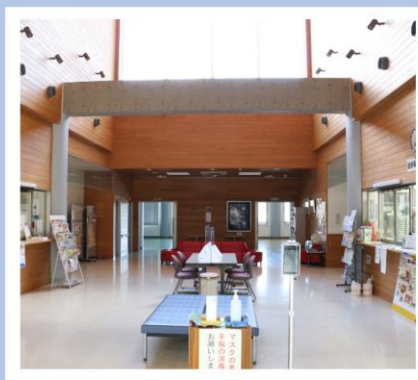
(2) 油谷保健福祉センター

油谷保健福祉センターは、平成17年2月に完成した約1,476㎡を有する鉄筋コンクリート造り平屋建ての比較的大きな建物である。油谷支所健康福祉担当と長門市社会福祉協議会等の事務室が併設されており、同協議会によるデイサービス、訪問介護事業所、在宅介護支援事業所が施設内で開設されている。さらに平成31年4月から長門市西包括支援センターも配置され、油谷地区での健康増進・福祉活動の拠点として使われている。また、災害時の避難所としても指定されており、安全性の確保が最優先される必要がある。

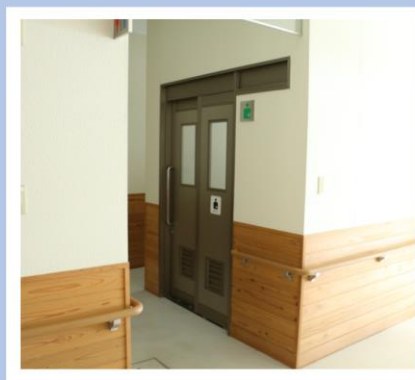
施設は、集団検診室、栄養実習室、会議室、トレーニングルームなどを有し、他の公共施設と比較しても、バリアフリーにも対応しており、利用者にやさしい施設ではあるが、建設後16年が経過していることもあり、設備の修繕費用など維持管理費の増加傾向は否めない。加えて、高台立地による高齢者等の徒歩での来庁に係る課題の指摘もある。



油谷保健福祉センター



開放的なロビー



多機能トイレ

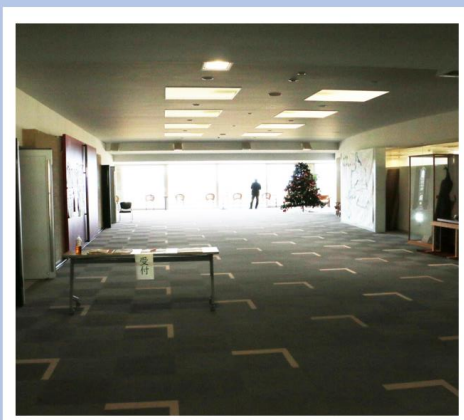
(3) ラポールゆや

ラポールゆやは、油谷中央公民館、文化会館、図書館分館の機能を併せ持った複合施設である。大ホール、コミュニティホール、図書室、各種会議室などがあり約3,413㎡を有する、油谷地区における最大の公共施設の一つである。油谷地区での生涯学習・文化振興活動の拠点として使われている。

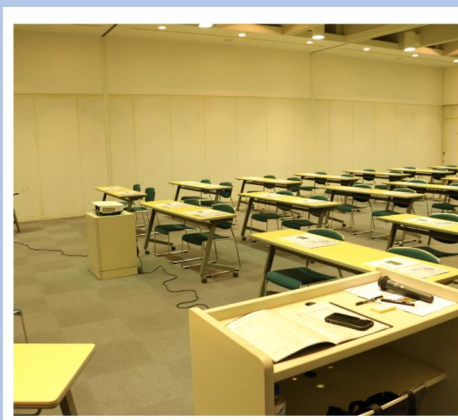
また、油谷保健福祉センターと同様、災害時の避難所としても指定されており、地域防災拠点の一翼を担う施設として利用されている。



ラポールゆや



広々としたロビー



多様な用途に使える施設

(4) 西消防署

西消防署は、市の西部地区を管轄する消防署である。昭和48年に建設され、消防車両機庫、職員仮眠室、事務室などがあり約278㎡を有する。これまでに必要に応じた改修が繰り返されてきているものの、一部、外壁のコンクリート剥離、落下が見られるなど老朽化が進行している。

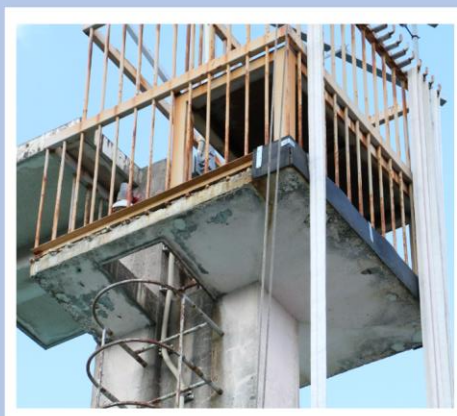
また、建設当時及び過去の改修において女性職員の勤務を考慮していないため、女性専用施設（風呂・トイレ・仮眠室）がなく、女性職員が西消防署に勤務することができず、職員の経験格差が生じる要因となっている。

さらに、消防車両の大型化により、現状の車庫では車両間の安全のための保有距離の確保が難しいなどの問題点が主として挙げられる。

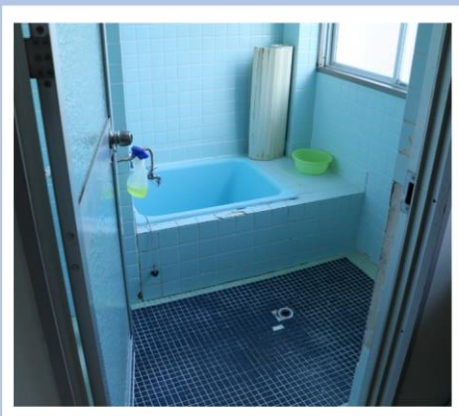
油谷・日置地区の防災活動の拠点としての役割を果たしており、安全性の確保が最優先される必要がある。



西消防署



劣化して落下するコンクリート



男性用しかない浴室



出動時に天井に接触する無線アンテナ

第2章 油谷地区小さな拠点づくり中心的施設整備の基本的な考え方

1. 基本構想における中心的施設整備の検討

基本構想策定の際に実施した市民アンケートでは、小さな拠点づくりを推進するにあたり、中心的施設である油谷支所及び西消防署の老朽化に伴う更新と、油谷保健福祉センターの適正配置が必要との考えから住民の意見を聞いた。

油谷支所の建替については、「建替した方が良い」364人（46.8%）、「建替せず、改修すれば良い」223人（28.7%）、「建替をしなくても良い」110人（14.1%）との回答があった。また、仮に油谷支所と西消防署を建替えるとした場合の質問に関しては、「集約した方が良い」との回答が487人（62.6%）で一番多く、次いで「集約しなくても良い」216人（27.8%）、その他が30人（3.9%）の順となった。

続いて、前述の油谷支所と西消防署を集約したほうがよいと回答した487人に、その建替場所についての質問を行ったところ「現在の油谷支所」との回答が435人（89.3%）で最も多く、次いで「その他」35人（7.2%）となった。

この結果、現在の油谷支所の場所は、油谷地区住民にとって利便性が高い場所であると多くの方が認識していることがわかる。

但し、この市民アンケートは、後述の水防法の改正による新たな洪水浸水想定区域図（想定最大規模）の公表前に行われており、アンケート回収後に開催された第2回油谷地区小さな拠点づくり基本構想検討委員会（令和2年10月26日開催）において、洪水浸水想定区域に関する説明がされたことにより、油谷支所等の整備場所については、災害への対応を鑑み、高台への整備を望む意見も複数の委員から上がった。同委員会では、その後行われたワークショップで住民の意見を聞きながら検討することとした。各地区のワークショップでは、施設整備に係る様々な意見があったが、整備場所などの詳細については、今後策定する基本計画で検討するとしたため、基本構想には反映されなかった。

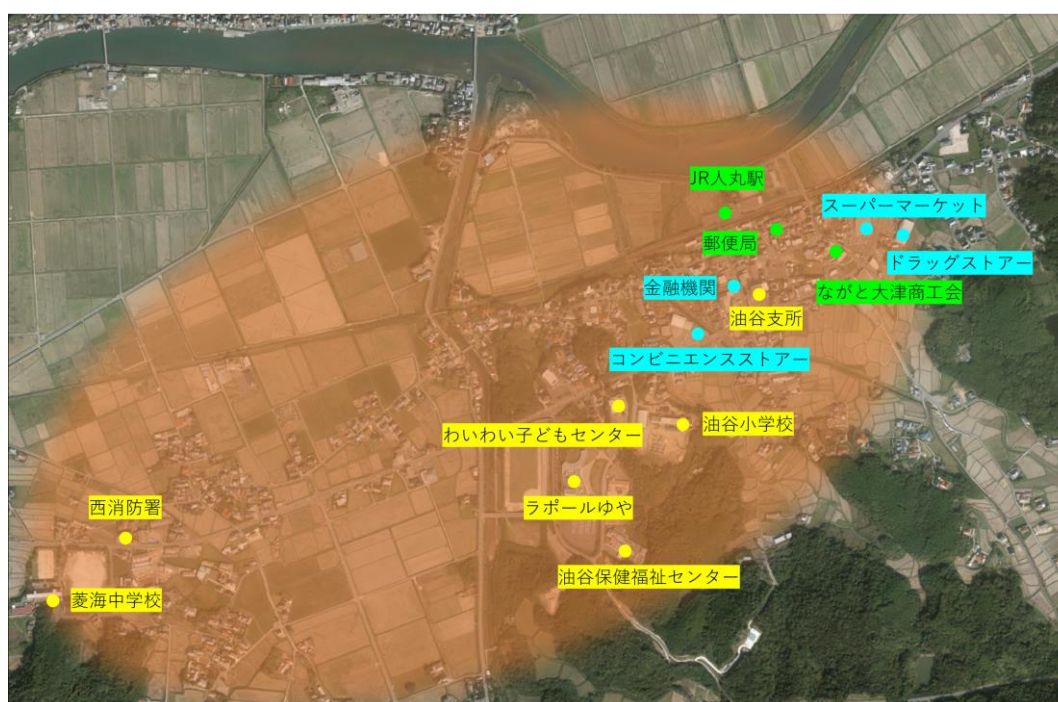
※市民アンケート…令和2年7月実施。18歳以上の油谷地区住民のうち、2000人を無作為抽出。778通回収。回収率38.9%

2. 中心的施設立地エリアの特徴

(1) 油谷支所周辺部

油谷支所の周辺には、ラポールゆや（油谷中央公民館、文化会館、図書館分館の複合施設）、油谷保健福祉センターなどの公共施設や、小中学校等教育施設が点在している。また、郵便局、ながと大津商工会支所、山口銀行支店、山口県農協支所など公共的サービス及び金融関係施設や医院、歯科医院といった医療施設もある。

商業関連施設では、スーパーマーケット、ガソリンスタンド、コンビニエンスストア、ドラッグストアなど商業施設・各種店舗などもある。



中心的施設立地エリア周辺の主要施設



油谷支所前の国道（周辺には暮らしに必要な機能が備わっている）

(2) 安全安心なまちづくりに係る変化

日本全国で、地球温暖化の影響を受け、毎年のようにこれまでの想定を超える規模の水害が発生していることから、長門市においても、想定最大規模の水害が発生することが否定できない状況にあると考えられる。

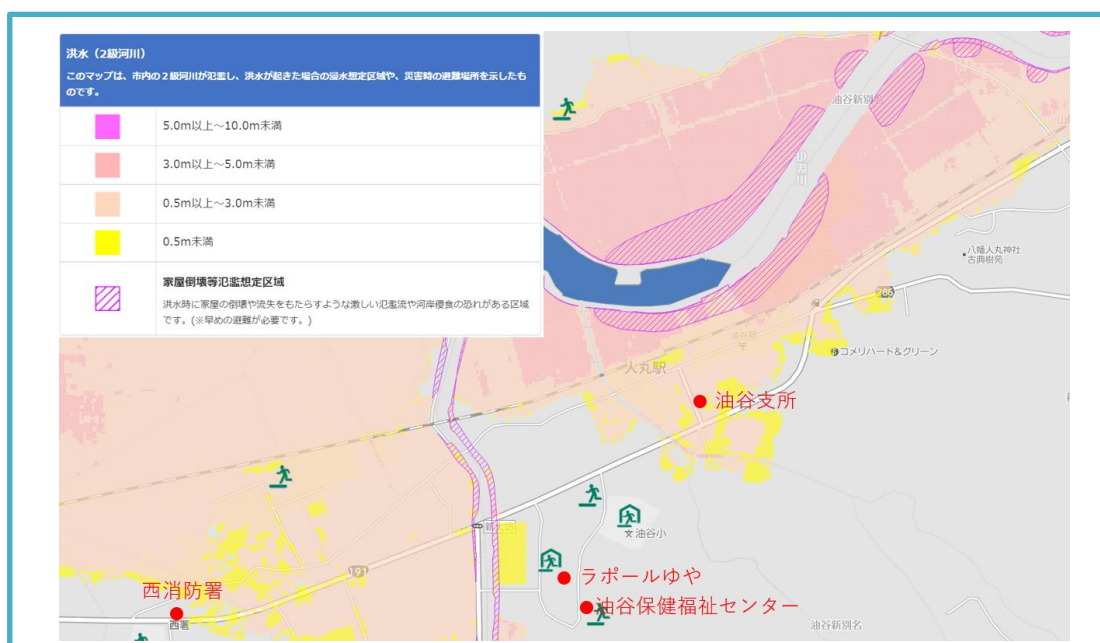
油谷支所近くの掛淵川においては、1日の総雨量488mmが想定最大雨量となるため、新たに策定されたハザードマップによれば、現在の支所の位置は、降雨で氾濫した場合に浸水する可能性が高い洪水浸水想定区域にかかることになる。想定される最大浸水の規模は0.5m未満、周辺部では0.5m～3m未満と公表されている。

想定最大規模降雨とハザードマップ

近年、全国的に集中豪雨などによるこれまでの想定を上回る規模の水害が頻発しており、短時間で河川が増水したり、堤防が決壊して甚大な被害が発生するなどの事案が増加している。今後地球温暖化に伴う気候変動により、大雨による降水量が増加することや、短時間強雨の発生頻度が増加することなどが予測されている。

こうしたことを踏まえ、激甚な浸水被害への対応を図ることなどを目的として、平成27年に水防法が改正され、日本全国の降雨特性の類似した地域を、その地域における最大雨量及び発生頻度などを基準に、約1000年に一度(1/1000年)発生し得る降雨量を算定し、その降雨量を各河川流域に当てはめ、想定しうる最大規模の降雨により当該河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定し、その区域及び浸水した場合に想定される浸水深などが示されたハザードマップが作成され公表されている。

(長門市 掛淵川・大坊川 洪水ハザードマップ)



(3) 整備・配置場所の比較

中心的施設の整備場所については、現在の油谷支所の敷地、もしくは油谷保健福祉センター及びラポールゆや周辺が考えられる。中でも西消防署の整備場所は、救急車などの緊急自動車のサイレン音や防災上の観点から、住宅が多い現在の油谷支所周辺ではなく、油谷保健福祉センター及びラポールゆや周辺の高台が望ましいと考えられる。

各候補地について、評価項目に基づいた条件整理・比較を行った。

<条件整理・比較表>

	現在の油谷支所の敷地	油谷保健福祉センター及びラポールゆや周辺
災害時における安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・0.5～3.0m未満の洪水浸水想定区域が想定される。 ・土砂災害警戒区域非該当 ・支所機能と災害時の避難所機能が分散する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水浸水想定区域及び、土砂災害警戒区域については非該当 ・災害対応、避難所運営を集約できる
公共交通の利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・JR、路線バス、デマンド交通が立寄る駅から近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 駅から離れている。 ・路線バス、デマンドは立寄り可能。
車での利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・国道沿いから近い。建物の位置は分かりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国道沿いから少し奥に入る。建物位置は分かりにくい。
徒歩での利便性	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺に銀行、郵便局、スーパーなどがあり比較的徒歩での移動は容易。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高台にあり、徒歩での移動は時間と負担がかかる。
跡地・跡施設活用	<ul style="list-style-type: none"> ・油谷保健福祉センターから、市職員がいなくなった際の維持管理、空きスペースの利活用検討が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・油谷支所跡地の利活用検討が必要。
事業費	<ul style="list-style-type: none"> ・市有地のため用地取得の必要なし ・庁舎施設整備における財政的支援施策が少ない。 ・嵩上げ費用が掛かる 	<ul style="list-style-type: none"> ・市有地のため用地取得の必要なし ・既存施設の改修となるので、整備費用が僅少。 ・複合施設の整備について、財源確保が容易。

3. 中心的施設に求められる基本的役割

“いごちよく”住み続けられる油谷地区の実現に向け、油谷支所をはじめとする既存の公共施設が担っている機能と、今後求められる機能を整理し、安全な立地で整備を行う必要がある。また、住民の活動、地域内外の交流を行う拠点、住民自らが地域を支える地域運営の仕組みの拠点となることが求められている。

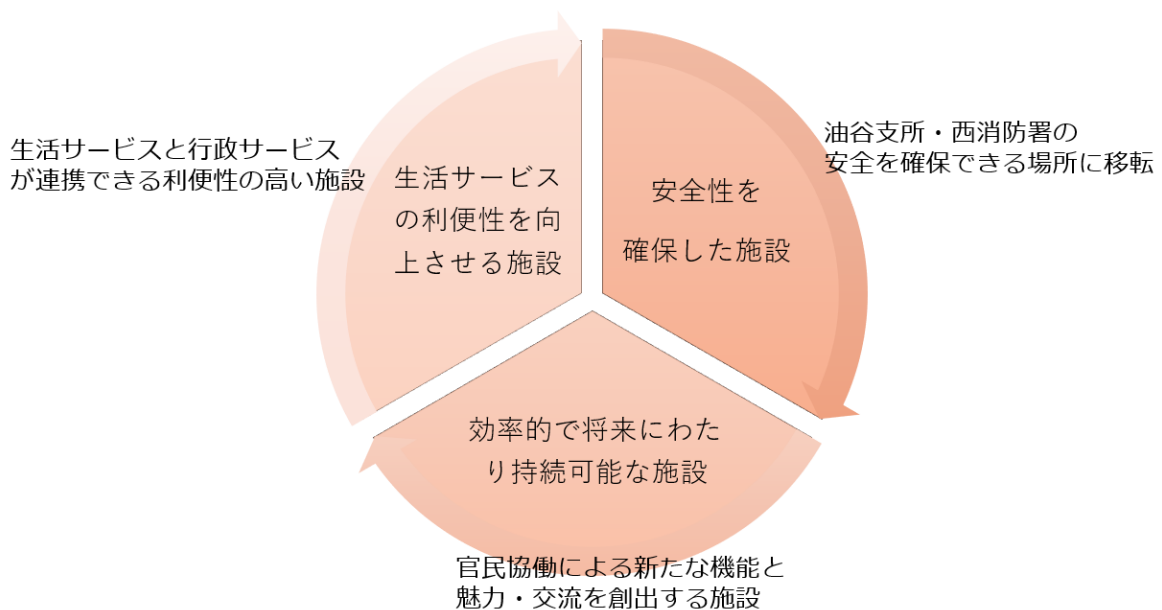
中心的施設の効果的な整備・運営を行うことで、地域住民の利便性向上と新たな機能による魅力創出により、人口流出の抑制・定住移住促進を図り、持続可能な地域づくりを目指す。

《中心的施設の基本的役割》

(1) 安全性を確保した施設 →安全に生活できる環境づくり
○油谷支所、西消防署は、地域の防災拠点としての機能や避難所を考慮した場所とする。
(2) 効率的で将来にわたり持続可能な施設 →魅力ある地域づくり
○既存施設の機能見直しを図るとともに、新たな機能と魅力を創出する。 ○行政や市民、民間事業者など多様な主体の連携により、相乗効果を生み出すような交流施設とする。
(3) 生活サービスの利便性を向上させる施設 →住みやすい地域づくり
○商店、郵便局、金融機関、支所、保健福祉センターなど生活サービスや行政サービスの施設と連携することで、地域住民の利便性の向上を図る施設とする。

“いごちよく”住み続けられる油谷地区の実現

(地域住民の利便性向上・人口流出抑制・交流人口拡大・移住定住促進)



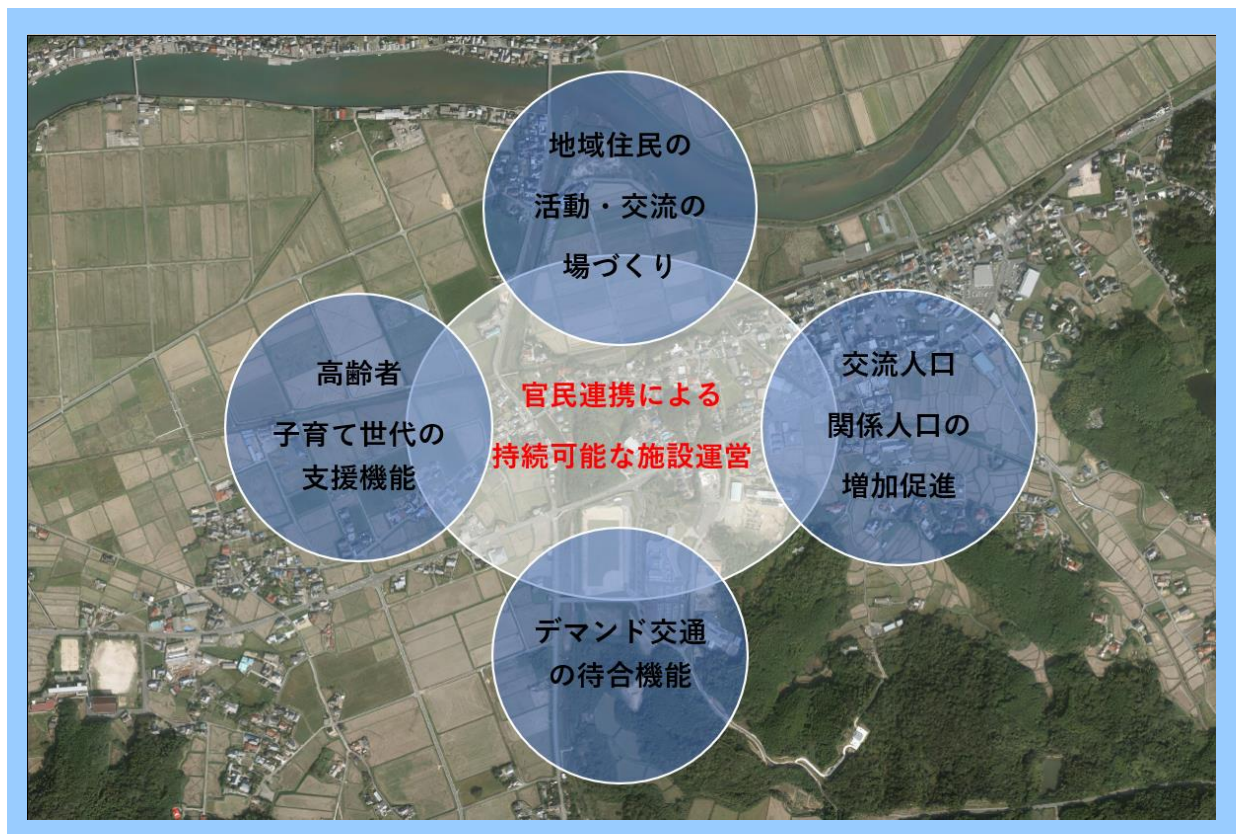
4. 中心的施設と民間施設との複合化

中心的施設の基本的役割である「効率的で将来にわたり持続可能な施設」を実現する方法のひとつに、民間施設との複合化が考えられる。公共施設と民間施設の複合化により、地域のニーズから公共施設に新たな機能を付加したり、地域や地域住民の交流の活性化を図ったりする効果も期待される。

複合化にあたっては、民間事業者の受け入れのほか、住民の活動・交流を行う場づくりや、将来的に交流人口や関係人口の増加を促す施設となるような機能、高齢者の交流機能や介護・子育て相談機能、油谷地区や日置地区のデマンド交通の待合機能などを併せ持つことにより、持続可能な施設として有効活用されることが見込まれる。

また、油谷地区の「小さな拠点づくり」を考える際、市民にとって身近にあると利便性が向上すると考えられる機能として、社会福祉協議会など福祉関係団体や、介護の相談支援窓口である西包括支援センターも考えられる。

その他、住民が集う小規模イベントや軽トラ市等が開催できるフリースペースの整備など、中心的施設が油谷地区の交流・活性化の拠点となることが求められる。



第3章 油谷地区小さな拠点づくり中心的施設整備方針

1. 中心的施設整備のコンセプト

小さな拠点づくり基本計画検討委員会では、各施設の現状及び課題にかかる資料、油谷地区の人口の将来予測、基本構想策定の際に行ったアンケートやワークショップでの意見、さらには水防法の改正に伴う新たなハザードマップを参考とし、持続可能な地域づくりを前提に災害に強い施設のあり方、住民の利便性の向上、油谷地区の交流・活性化の拠点づくり等、様々な検討を行ってきた。

その中で、「小さな拠点づくり」において、支所や消防署などの中心的施設を「点」でとらえるのではなく、油谷地区全体に目を向け、「向津具地区」「宇津賀地区」「菱海地区」を含む「面」でとらえ、油谷地区の交流・活性化の拠点となり、油谷地区全体の振興に結び付けられることが重要との意見があった。

こうした意見を集約・整理し、基本計画における中心的施設の整備については、次のとおりコンセプトをまとめた。

(油谷地区小さな拠点づくり基本構想で目指す将来像)

「誰ひとり取り残さず“いごこちよく”住み続けられるまち」

(中心的施設整備のコンセプト)

**「油谷地区全員の安全安心を守るとともに
居心地のよい場づくりで地域を活かす」**



2. 中心的施設の整備・配置場所

油谷支所は、各種行政手続きや相談業務などを担っている一方、万が一の災害の際は、西消防署とともに防災拠点としての役割を担うとともに、避難所運営を円滑に行うことも重要となってくる。

近年、地球温暖化の影響を受け、全国的にこれまでの想定を超える規模の水害が発生しており、長門市においても、想定最大規模の水害が発生することが否定できない状況にあると考えられる。そのため、非常時における支所や西消防署のあり方を見直し、住民の防災訓練など防災意識の向上を図る必要がある。

新たに策定されたハザードマップによると、現在の油谷支所の敷地は、洪水浸水想定区域に指定されており、将来にわたり油谷地区全体の安全安心なまちづくりを実現可能とするため、さらには現在の油谷支所の敷地の利点を最大限に活かすため、油谷保健福祉センターの適正配置を行い、油谷地区全体を見据えた利便性の向上、地域の活性化を図れるよう中心的施設の整備・配置を行うこととする。

(1) 油谷支所及び西消防署を高台にある油谷保健福祉センター及びラポールゆや付近に集約・整備

油谷地区全体の防災救助活動の拠点として、かつ災害などの非常時における住民の避難場所として機能維持の充実を図り、安全安心なまちづくりを推進。

(2) 現在の油谷支所の敷地に新たな機能を有する簡易な複合施設などを整備

油谷地区住民の交流・活性化の拠点として、そこに住み続けたいくなる、また、地域外の人が住みたいくなるまちづくりを推進する。



3. 中心的施設に求められる機能と役割

■ 油谷支所

- ・ 地域住民に密着した行政サービスの提供
- ・ 地域まちづくり活動の支援
- ・ 災害時の防災拠点としての役割（支所、避難所運営の一体化）
- ・ デジタルトランスフォーメーション※推進方針に基づいた、行政手続きのオンライン化やワンストップ化の推進

※「デジタルトランスフォーメーション」デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること

■ 西消防署

- ・ 災害時の防災活動拠点としての役割
- ・ 市民の命と生活を守る防災行政サービスの提供

■ 複合施設

- ・ 民間活力の導入や、地域ニーズに基づくサービスの提供
- ・ 住民の活動・交流拠点となる場所の提供

複合施設に求められる機能と役割については、基本構想や基本計画検討委員会での議論などをもとに以下のとおりとする。

【小さな拠点の実現に向けた取組のアプローチ】 小さな拠点づくり基本構想より

- (1) 居心地のよさを追求し、住み続けたい・住みたいまちづくり
- (2) 地区間と地区内のつながりとネットワークを強めるまちづくり
- (3) 油谷に住む一人ひとりが主体となった、地域を守り、支えるまちづくり
- (4) 油谷地区の全員が安心して集まれる居心地のよい場づくり

【複合施設に求められる役割】

(1) 高齢者の交流場所、介護や子育ての相談場所
油谷保健福祉センター機能の一部を移設し、相談窓口、行政手続等案内、検診、選挙投票所として利用できる。
(2) デマンド交通の待合、住民の交流拠点
向津具地区・宇津賀地区・日置地区のデマンド交通の待合として利用し、利便性、快適性を向上させる。
(3) ゴミの拠点回収施設
暮らしを支える機能を維持・充実させる。
(4) その他
民間集客施設の併設、物販やイベント等開催できるスペースの整備。 まちづくり協議会等、地域住民の交流の活性化を推進する。 時代の変化に応じ、柔軟に対応できる施設。

第4章 事業計画

1. 整備計画

(1) 油谷支所

油谷保健福祉センターは、現在、油谷支所健康福祉担当、長門市社会福祉協議会油谷支所、西包括支援センター等保健福祉に関する事務所があり、健康診断や健康相談など健康増進を図るための施設としても活用されている。油谷地区の施設としては、比較的新しく大きい建物であり、災害時は避難所に指定されていることから、油谷保健福祉センターを改修し、油谷支所機能を移転することにより、油谷地区全体の防災拠点のひとつとなる。支所機能移転に向けた施設改修、再配置を行う際は、災害時の避難所機能の維持、充実を図るとともに、市のデジタル推進方針に沿った「スマート市役所」に向けた対応についても検討する。

支所機能の効率的で効果的な運営を行うとともに、地域住民の利便性向上に向けて、デマンド交通の活用を促進し、福祉関連機関とも連携した地域住民にやさしい施設づくりを目指す。

あわせて、地域まちづくり活動の積極的な支援に向けて、施設内の設備を有効活用する中で、ラポールゆや等周辺施設との連携も図り、地域活性化に向けた事業を展開する。



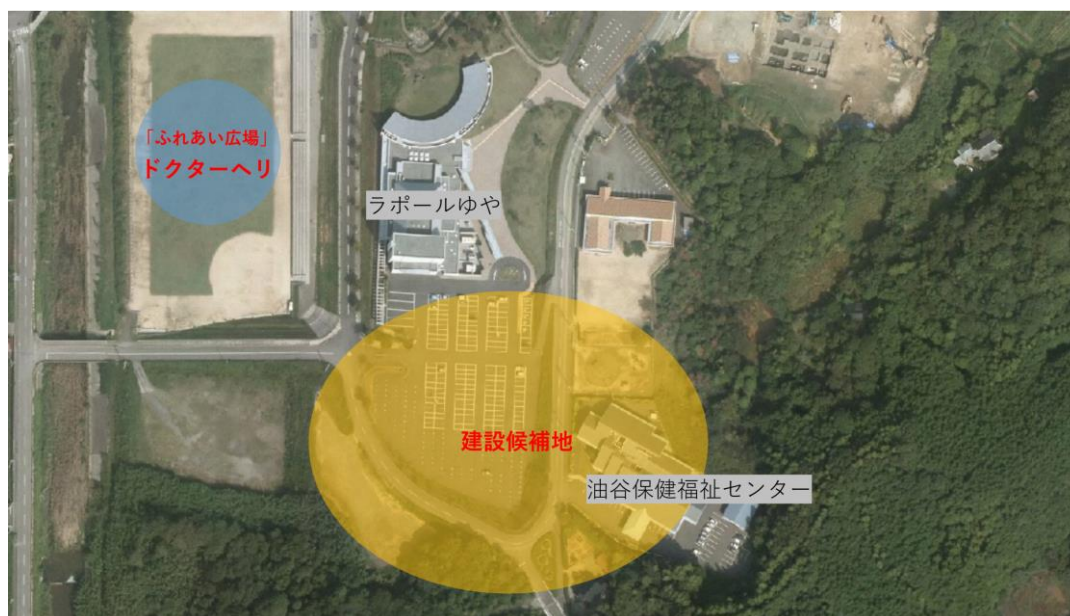
油谷保健福祉センター

(2) 西消防署

西消防署は、油谷地区・日置地区地域の防災救助活動の拠点である。災害時には、支所や避難所と連携を行うことも想定されるため、洪水浸水想定区域外であるラポールゆや周辺部の高台での整備を検討する。整備にあたっては、迅速な出動態勢がとれる敷地計画を実現させるとともに、ICT等を活用した時代に即した施設及び設備を検討する。

また、ラポールゆやに隣接する「ふれあい広場」は、救急搬送におけるドクターヘリの発着場にも指定されていることから、緊急時におけるサポート体制を確立する。

さらに、ゆとりのある周辺の敷地や施設を効果的に活用し、地域住民の防災意識向上に向けた事業等も積極的に実施する。



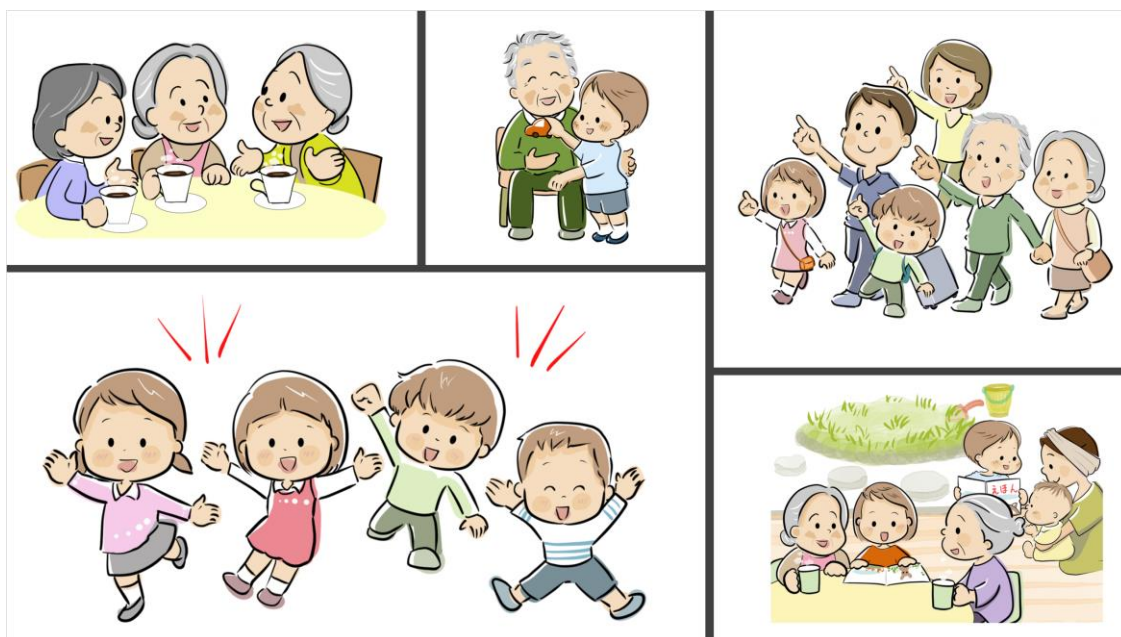
ドクターヘリの発着場「ふれあい広場」
(長門市HPより)



防災意識向上に向けた事業実施
(長門市HPより)

(3) 複合施設

複合施設は、官民の特性を生かした協働による交流拠点となるようにイメージ案を定め、詳細な規模・機能・配置計画及び整備手法などは、今後更なる検討を行い、別途に整備計画等を作成する。



人々が交流できる地域の複合施設

2. 事業スケジュール

支所移転・解体、跡地整備については、令和4年度から順次着手する。

関係団体等の協議が整い次第、油谷保健福祉センター改修工事を行い、支所機能を移転する。

また、支所移転後は、油谷支所庁舎解体と跡地の新たな複合施設整備に向け、基本設計・実施設計を進めて行くこととする。

新西消防署については、令和4年度から長門市消防本部において、詳細な整備計画等を検討する。

令和4年度からの支所移転等の作業の進捗や、油谷支所庁舎の解体スケジュールを見据えて、整備事業スケジュールを設定するが、できるだけ早期の整備が求められる。

今後は、基本設計、実施設計の各段階で、必要に応じたスケジュールの見直しをしながら進めることとする。

		スケジュール			
令和4年2月		令和5年3月	令和6年3月	令和7年3月	令和8年3月
油谷地区 小さな拠点 づくり基本計画 策定	油谷支所	油谷保健福祉センター改修・外構工事	旧支所解体工事	運用開始	
	西消防署	基本・実施設計	整備工事	運用開始	
	複合施設	基本・実施設計	整備工事	運用開始	

3. 概算費用

油谷支所、西消防署及び複合施設の整備については、施設規模、機能等の整備内容が不確実な部分もあるため、事業費概算費用については整備内容と併せて今後検討する。

— 油谷地区小さな拠点づくり基本計画検討委員会 —

【メンバー構成】

- 油谷地区自治会組織代表者／油谷地区自治会連絡協議会長
- 小さな拠点が形成される地区の自治会関係者／駅通自治会長、東大坊自治会長
- 商工団体関係者／ながと大津商工会会長
- 公共サービス事業者／油谷郵便局長
- 福祉団体関係者／長門市社会福祉協議会理事
- 消防本部／長門市消防本部総務課長

【開催日】

- <第1回会議> 令和3年 6月21日(月)
- <協議会> 令和3年 7月13日(火)
- <協議会> 令和3年 8月10日(火)
- <第2回会議> 令和3年10月15日(金)
- <協議会> 令和3年11月24日(水)
- <第3回会議> 令和3年12月24日(金)

長門市油谷地区小さな拠点づくり基本計画

長門市役所 油谷支所

〒759-4503 長門市油谷新別名964番地

TEL : 0837-32-1111

FAX : 0837-32-2778